The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞加藤洋介編『伊勢物語校異集成』
Author(s)	北島, 紬
Citation	語文. 2017, 106-107, p. 177-177
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70993
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

加藤洋介編『伊勢物語校異集成』

北島　紬

『伊勢物語』研究においては、これまでに池田亀鑑『伊勢物語に就きての研究　校本篇』（大岡山書店、一九三三年）・大津有一『伊勢物語に就きての研究　補遺篇』（有精堂、一九六一年）・山田清市『伊勢物語校本と研究』（桜楓社、一九七七年）の三本（以下、三校本）が出版され、校本として広く利用されている。しかし池田・大津校本は天福本、山田校本は武田本を底本として採用しているため、研究者にとって利便がよいとは言い難く、またこれら校本の作成された時代を考えればやむを得ないことではあるものの、校異には誤りや見落としが散見されるものでもあった。本書はこの三校本の校異を統合して、伝本の丹念な再調査により三四〇〇箇所あまりの修正を加え、さらにこれまで未収であった伝本の校異をも追加したものである。

まず、本書は大きく本文篇と校異篇から成っており、どちらも補充章段（池田校本が「定家本に見えずして他本に見ゆる章段」として別途校異を掲出するもの）及び真名本の項が合わされている。底本には池田校本と同じく学習院大学日本語日本文学科蔵の三条西家旧蔵伝藤原定家筆本が用いられ、山田校本の校異についても天福本を底本とする形で統合がなされている。真名本底本は池田校本と同じ寛永二十年版本である。

三校本に比してとりわけ優れた点として、まずはその視認性の高さが挙げられる。三校本はどれも系統別に校異を掲載しているため、系統の異なる伝本間の異同が把握しづらいという問題があった。本書では校異の統合にあたり、前述した三校本所収伝本及び本書の新規採択本は系統ごとにアルファベットが割り当てられ、各系統を一望することが可能となっている。また、三校本及び新規採択本においては採用する伝本が重複し、さらにそれに異なる略号が付されている、あるいは異なる本文系統に分類されている、といった状況があったが、そのような場合であっても重複伝本の省略は行われず、まず三校本の分類や略号を踏襲して校異が掲げられ、その後に本書での新規採択本として異なる系統に略号が再掲されている。なお三校本になかった特長としてはもう一点、本書では補入・ミセケチ・傍記に加え、他本との校合も校異として採用されていることが特筆されよう。諸伝本の校合の跡は『伊勢物語』研究史そのものとも言え、本書によってそれを辿ることができる恩恵は非常に大きい。本書「あとがき」の文言にもあるように、一貫して「往年の研究成果を尊重するとともに、今後の研究に資する」姿勢が貫かれているのである。

なお、凡例には新規採択本のみならず三校本の所収伝本についても現蔵先の最新情報が記載されている。『伊勢物語』研究者にとって至便の書となるだろう。

（和泉書院、二〇一六年二月、四九四頁、一八，〇〇〇円＋税）

（きたじま・つむぎ　本学大学院博士後期課程）